

こんな時だからこそ ～今、私達が希望でありたい～

この度の東日本大震災により被災された方々に

心よりお見舞い申し上げます。

被害に遭われた方々のご回復と

被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

多くの人々が復興支援に動いている中、私どもも毎年恒例の「夢・誕生祭」の開催にあたり後巡いたしました。このような状況の中で私達エイコー堂に何が出来るのか、何をすべきなのかを色々と考え悩みました。やはり私達には誠意を尽くした適正な商業活動以外には無いのではないのでしょうか。被災地の人々に目を配るのは素晴らしいことですが、やはり仕事を通じて自らの本分を尽くすことだと思います。

先日の選抜高校野球もサッカーのチャリティーマッチも石川遼君にしてもそれぞれの分野で出来ることをしています。私達も元気を出して、私達が出来る支援を精一杯させて頂き被災地の人の少しでも「勇気」と「希望」になればと思っております。

過度の「自粛」は「萎縮」を生むだけです。混乱し困難な時こそ自分本来の姿を取り戻そう。今まで瀬戸内で穏やかな日常を過ごさせていただいたことに感謝し、出来るだけ今まで通り、今まで以上に頑張ろうと先日山陽新聞を通じ、義援金をさせて頂きました。この浄財はエイコー堂を支持して下さっているお客様お一人お一人の善意の賜物でございます。機会があれば今後も続けたいと思っております。

どうか皆様方もあたたかく御理解下さいますよう今後共よろしくお願い申し上げます。

店主 西原栄七
スタッフ一同

多額義援金相次ぐ

山陽新聞
社会事業団

東日本大震災の被災者を支援しようと、岡山市北区柳町の山陽新聞社会事業団（越宗孝昌理事長）には15日も企業や団体から多額の

義援金が寄せられ、代表者が越宗理事長らに現金を手渡した。
—中略—
エイコー堂（倉敷市、西原栄七社長）は10

8万5千円、
—中略—
西原社長は「われわれが経済活動を活性化させることが支援につながるはず」と話した。



2011年4月16日 山陽新聞より